

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おれんじキッズ&児童デイサービスアニマートうるま安慶名		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		令和8年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 15日		令和8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では職員1人ひとりが児童と真っ向に向き合い、個々の特性や背景を考えた上で支援を行っています。保護者や児童が抱えている困りごとに関して職員間で共有・競技を行い、自己肯定感を高める環境づくりに努めています。	・保護者や児童が抱えている困りごとに対して職員間で情報共有や協議を行い多角的な視点から検討しています。 ・個々の特性に合わせた個性の高い支援の立案を心がけています	・職員の支援力向上のための継続的な振り返りや研修の実施や、関係機関や家庭との連携を深め、包括的な支援体制の構築を目指したい。
2	児童が学校生活や家庭の悩みを安心して話せる関係性の構築を重視しており、日常的な対話を通して早期の課題把握に繋がっています。	・児童が安心して悩みを打ち明けられるように、支援者としての適切な距離を大切にしながらも、児童の視点に立った共感的な関りを心がけています。大人としての役割を果たしつつ、児童にとって身近で信頼できる存在となることで、話しやすい環境づくりに努めています。	・児童がより安心して自己開示できる環境を強化するため、職員間で関わり方や気づきを定期的に共有し、支援の質の向上に努めていきます。また、小さな変化を見逃さないよう観察力や対話力の向上を目的とした研修や振り返りの機会を充実させ、より信頼関係を深められるよう支援体制の構築を目指します。
3	コンパクトな空間設計を活かし、支援中の資格を最小限に抑える事で安全管理と状況把握の精度向上に努めています。	・安全に配慮した支援環境を維持するため、職員同士が互いに声を掛け合いながら児童の位置や活動状況を把握し、見守り体制の強化に努めています。	・定期的に室内環境の見直し、点検を行います。 ・ヒヤリハット事例の共有を通し、危険予測力の向上に取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	心理担当職員の配置はしているが、言語聴覚士が不在であるため、言語面に特化した専門的支援の提供体制が十分とは言えない。	専門職は人材確保が難しく、採用に至っていないことが背景にあります。	外部専門職との連携や助言を受けられる体制の構築の検討をするとともに、職員が言語発達に関する知識を深められるよう研修等の参加を推進し、支援の質の向上を図りたい。
2	安全管理のしやすさという利点がある一方で、室内スペースに限りがあるため、活動内容が制約される場面がある。	建物の構造上、大人数での活動やダイナミックな運動活動を行うための十分な空間確保が難しい。	野外活動や、地域資源の活用を積極的に取り入れ、児童の経験の幅を広げていく。
3	保護者支援の重要性を認識しているが、十分な時間確保が難しい場合がある	送迎や療育支援等の業務が多岐にわたる為、保護者と丁寧に向き合う時間の調整が難しいことが背景にある。	計画的な面談機会の確保や、情報共有の方法を工夫し保護者が安心して相談できる体制づくりを進めていく。また、日常的なコミュニケーションを大切にし、家庭と連携した継続的な支援の強化を図る。